

愛媛県南予地方におけるオキナワヤワラガニの追加記録

山川宇宙¹・森口宏明²・清水孝昭³・山下龍之丞⁴・山本貴仁⁵

¹ 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻 ² 株式会社環境アセスメントセンター

³ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター

⁴ 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用環境システム学専攻 ⁵ 西条自然学校



写真1 *Neorhynchoplax okinawaensis* オキナワヤワラガニ (TKPM-AR 3533)

種の記録

Hymenosomatidae ヤワラガニ科

Neorhynchoplax okinawaensis (Nakasone and Takeda, 1994) オキナワヤワラガニ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3532, 1♂, 甲長 3.4mm, 甲幅 3.7mm, 蓮乗寺川(愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城), 2025年9月23日. 3533, 1♂, 甲長 3.8mm, 甲幅 3.9mm, 鶴間川(愛媛県宇和島市吉田町鶴間), 2025年9月24日. いずれも山川宇宙採集.

種の特徴

上記2標本は、甲が扁平で丸みを帯びる三角形。甲域は明瞭に区分される。額に鈍い3歯があり、中央の歯がやや長大。前側縁に歯はないが、後側縁に前方を向く歯状突起を1つ持つ。鉗脚は歩脚より強大で、鉗部の指部切断面に歯を有する。歩脚は細長く、指節内縁に小歯をもち、かつ剛毛が列生する。以上の形態学的特徴が、三浦(2008)のオキナワヤワラガニの特徴と一致したため、本種に同定された。

備考

本種は日本固有種で、静岡県および長崎県以南から記録されている(乾ほか, 2020; 山川ほか, 印刷中)。愛媛県においては宇和島市の岩松川のみから記録されており(山川ほか, 2025)、本稿は生息情報の乏しい本種の同県2–3例目の記録となる。本研究において、蓮乗寺川産の標本は松島橋下の砂泥底上に堆

積したカキ殻の中、鶴間川産の標本は犬日大橋約95m上流の砂礫底上にあった直径約30cmの岩の下から採集された。いずれの地点も、干潮時でも海水が流入する感潮域であった。こうした環境は、乾ほか(2020)や山川ほか(2025)における本種の生息環境と概ね一致する。今回、両河川ともにオス1個体のみの確認に留まっており、現時点では本種の越冬や再生産、定着の状況については判断し難く、より南方の水域からの海流分散により、偶発的に出現した可能性もある。しかし、近傍の岩松川からも記録があることを考慮すると、本種が南予地方に広く分布する可能性も十分に考えられる。今後、同地方の感潮域においてカキ殻帯や転石環境を重点的に調査し、本種の生息状況を明らかにすることが望まれる。

謝辞

標本の登録を行っていただいた徳島県立博物館の鈴木佑弥学芸員に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 乾 直人・山川宇宙・碧木健人. 2020. 神奈川県田越川および静岡県青野川から採集された注目すべきカニ類4種. 神奈川自然誌資料, 41: 27–31.
- 三浦知之. 2008. 干潟の生きもの図鑑. 南方新社, 鹿児島. 197pp.
- 山川宇宙・深川元太郎・山下龍之丞. 印刷中. 長崎県西海市多以良川で採集されたオキナワヤワラガニ. 長崎県生物学会誌, 97: 頁未定.
- 山川宇宙・和田太一・山本貴仁・岩田和鷹・山下龍之丞・清水孝昭. 2025. 愛媛県岩松川で得られたオキナワヤワラガニ. 南予生物フィールドノート, 25010.

(2025年11月7日受付, 2025年11月8日公開)

連絡先: 山川宇宙 (e-mail: uchukawaanago@gmail.com)
(Uchu Yamakawa, Hiroaki Moriguchi, Takaaki Shimizu, Ryunosuke Yamashita and Takahito Yamamoto. 2025. Additional records of *Neorhynchoplax okinawaensis* (Hymenosomatidae) in southern Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25029)